



弘前大学同窓会報

第22号

発行日 令和3年3月31日
 発行者 弘前大学同窓会
 題字 吉田 豊 元学長



コロナ禍の各人の対策意識、 学生・教職員・同窓生の一体感

同窓会会長 西澤 一治

同窓会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルス感染症の流行が全世界を覆い、パンデミックとなりました。かつて黒死病と言われて2,500万人が死亡したペストや、20世紀初頭に4,000万人が死亡したスペイン風邪の再来か？と心配なさっている方もいらっしゃるでしょう。この新型コロナウイルスの死者数は現在、世界で約270万人、本邦でも8,000人を超えています。待ち望んでいた2020年東京オリンピック・パラリンピックも延期となり、更には延期しての開催さえも危ぶまれています。加えて2021年に入ってから、感染力の強い変異株ウイルスが発生し、わが国にも感染者が見られるようになりました。ちょっと心配です。

同窓生の皆様にも、不本意ながら感染された方、日常生活に大きな支障が出ている方がいらっしゃると思います。ご苦労お察し申し上げます。

その一方で2020年末から2021年にかけては、毎年流行するインフルエンザの患者さんが非常に少ないと云うお話も伺いました。この理由を考えてみますと、新型コロナウイルスもインフルエンザも同じウイルス感染ですから、普段の感染予防策、つまりマスク・手洗い・三密防止が極めて有効な手段だったと考えられます。

新型コロナウイルス感染は、濃厚感染者となれば無症状でも軽微な症状でもすべて拾い上げられますので、毎日沢山の陽性者が報道されま

す。一方インフルエンザは、高熱や強い咳などが無いと受診されませんので、拾い上げられるのは症状のはっきりした人達だけになります。しかも感染しても無症状という人は希です。この点が感染者数(患者数)の違いとして出ているのかも知れません。

弘前大学では、2020年4月に就任なさった福田眞作新学長の優れたリーダーシップのもと、入学式を始めとする大きなイベントの中止、メディアを活用した遠隔授業の開始など、次々に対応策を打ち出しました。そして教職員・学生に対しては基本的な感染予防策のガイドラインを示し、また学生の課外活動やアルバイトの禁止、県内外の移動の制限、特に緊急事態宣言対象の11都府県への移動に届け出や許可制など強い制限措置を講じました。

その上で、学業継続が困難になった学生や、アルバイトが失われて経済的に困窮する学生に対し、経済的に支援するための学支支援基金を設けました。これらについては大学のホームページをご覧になれば良く分かります。

同窓会でも2020年、大学に協力して会員の皆様にご支援のお願いをさせて頂きましたところ、大学の窮状を知った多くの同窓生の方々から、一方ならぬ支援を頂くことが出来ました。本当に有り難うございました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

今後も引き続き大学・学生のために、温かいご支援をよろしくお願い致します。

学生の学びを止めない

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言の対象が全国に拡大されたことに伴い、本学では、学生が講義室に集まり対面で授業を行うことが困難であると判断し、インターネットを活用して自宅で授業を受講できる「メディア授業」を2020年5月11日から実施することとしました。

全学として初めてとなる「メディア授業」を実施するにあたり、まず、学生に「メディア授業」を受けられる環境が整っているのか状況を確認するアンケート調査を行ったところ、パソコン等の所有状況やネットワーク環境により、受講が困難な学

生が一定数いることが判明したため、福田学長のリーダーシップの下、本学の附属病院の中古ノートパソコン80台の提供を受け、受講が困難な学生に貸与を始めたほか、通信容量の制限からメディア授業の受講が難しい学生に対して、Wi-Fiを利用して各学部の講義室や情報基盤センターのパソコン実習室を提供しました。

一方、非常勤講師を含めた先生方に向けて、メディア授業のはじめ方やスキルアップを目的とした全教員が参加する研修会を開催したほか、情報基盤センターと連携し、学生・教員向けにメディア授業のはじめ方などをまとめたポータルサイト「メ



コロナ禍の就任 1年目を振り返って

弘前大学長 福田 眞作

2020年4月より、弘前大学長に就任しました福田と申します。新型コロナウイルスの感染拡大によって、本学も教育・研究、社会活動および学生の大学生活に甚大なる影響を受けています。学生と教職員が一体となってこのコロナ危機と闘った学長就任1年目を振り返ってみたいと思います。

2020年3月23日の卒業式は、卒業生と学内関係者のみで式を簡素化したうえで挙行了しました。ちょうどその日に青森県第1例目の感染者の報告があり、予定していた4月3日の入学式と関連する全てのイベントを中止としました。その後、緊急事態宣言の全国拡大をうけて、「弘前桜まつり」や「弘前ねぶたまつり」が戦時中を除き初めて中止という市内の対応状況を踏まえて、本学の重要なイベントであるオープンキャンパスをWeb開催とし、弘大祭もまた中止せざるを得ませんでした。学生と教職員の感染リスクを回避するための苦渋の決断でした。

教育面では、学生と教職員を新型コロナウイルス感染症から守り、かつ感染症の蔓延によって大学閉鎖(登校禁止)となったとしても授業を継続できるようにと、対面授業に代わるメディア授業(オンライン授業、オンデマンド授業などの遠隔授業)ができる環境を整備しました。

学びを止めない環境整備とともに、経済的に困窮する学生さんの支援にも重点をおいてきました。奨学金とアルバイトで生計と学業を支えている学生さんが、アルバイト収入の激減や親からの支援の減額を契機

に学業を諦めることがないような支援が必要と考え、「弘前大学修学支援基金」を新設しました。全国の卒業生、教職員そして市民の皆様から多額の善意のご寄附を頂き、それを原資として「100円夕食」、「100円昼食」および「プレミアム食事券」などの事業を展開してきました。「100円シリーズ」は好評で継続を望む声の大きいことから、クラウドファンディング「バイトがなくなり困窮する学生に100円で夕食を食べさせたい!」を立ち上げました。ここでも、多くの皆様方から心温まるメッセージとともにご寄附をいただき、目標額を達成することができました。その後もさらに「食の支援」を通じた「心の支援」を継続しています。また寄附金にとどまらず、食糧(おにぎり・お米・もち麦・りんごコンポートなど)や地元製品のセットを地域の個人・団体から提供いただきました。苦境にたつ本学学生に対してご支援いただきました全ての皆様方に、この場を借りて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

新型コロナワクチンの接種開始は朗報ですが、本学の教育・研究、社会活動および大学生活が急速に改善に向かうとは考えられません。これからも教職員の皆様方にご協力をお願いしながら、コロナ禍にあっても弘前大学の教育・研究や社会活動の歩みを止めることがないよう取り組んでまいります。弘前大学同窓会の皆様方には、今後ともご支援を賜りますよう、宜しくごお願い申し上げます。

ディア授業@弘大」を開設し、授業開始までの準備を行いました。

前期の授業が始まり、学生がメディア授業をどのように受講しているか、授業を受けてみて問題がないかを把握するために継続的にアンケート調査を行い、その結果を踏まえて、同窓会等、日頃よりご支援をいただいております皆様からのご寄附を原資に、学生教材費支援金の給付等の経済支援や講義資料の印刷ができる印刷サービスなどの様々な学生支援を、大学生協や学内の各部署の協力によって実施いたしました。その後、後期の授業は十分な感染防止策を講じた上で、対面授業を再開することができました。2020年10月

の弘前市内でのクラスターの発生や年末の全国での感染拡大により、2度「メディア授業」に一時的に移行する場面がありましたが、学生の学びを大きく止めることなく円滑に授業を進めることができました。

本学の学びの場を守るために、非常勤講師の皆さまを含め先生方、学内の各部署、並びに学外からご支援いただいた多くの皆さまに深く感謝申し上げます。(学務部教務課)



人文社会科学部通信



人文社会科学部長
いじま ひろひろ
飯島 裕胤

令和2年4月から人文社会科学部長に就任した飯島裕胤です。応用理論経済学者です。

静かな環境に魅かれて弘前に越し7年になります。

令和2年前期の弘前大学はオンライン授業でした。当初、文系ということで「強い抵抗」と実施が危ぶまれましたが、非常にスムーズに実施されました。オンライン授業の「試行実施」、接続環境の整わない学生に対する「ルーター貸出」など、学生サポート面でも先進的でした。新米学部長は、先生方の後押しだけを行いました。

後期に対面授業が始まりましたが、学生は友人に会えたことがうれしく、普段より意欲的に登校してい

様子でした。半年で対面に戻ったことが大きいと思います。ただ、一部にオンライン授業に苦しんだ学生もいて、担任が伴走しました。

人文社会科学部は伝統的に「外向き志向」が強く、早くから実習とグローバル化に力を入れてきました。今後は「知識集約型社会」(多様な専門知識を集約して積極的に課題にあたる社会)に向け、他大学や行政・企業エキスパートとの交流の中で学ぶ構想をしています。その際は、昨今の「オンライン化」が後押しになり、多様な分野が揃う「文系総合学部」の強みが生きるでしょう。

昨夏からは「文系総合学部」の一端をどこでも体験できる「オンラインキャンパス」として、各15分程の講義動画を10本余り公開しています。QRコードからご覧くださ



修学のための経済支援

令和2年度は、その当初から、新型コロナウイルス感染症の更なる拡散が予測されており、経済的困難を理由として学業の継続をあきらめる学生が、例年よりも多くなるのではないかと懸念がありました。そこで本学では、本学独自の支援策に加えて、日本学生支援機構や文部科学省が実施する各種経済支援策を可能な限り利用して、学生の修学継続の支援を行いました。

弘前大学生生活支援奨学金

(本学独自事業)

本学では従前から、生活に困窮する学生に対し奨学金の無利子貸与を実施していたところですが、この度の新型コロナウイルス感染症拡大の状況等を鑑み、貸付上限額・貸付回数等の制限撤廃や、手続きの大幅な簡素化による奨学金振込までの期間短縮など、事業内容を強化し、学生へのより一層の支援を行いました。

学生教材費支援金 (本学独自事業)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、経済的に困難な学生が増大している事情に鑑み、学生の教科書購入費や資料印刷代を補助する目的で本学の学部学生及び大学院生全員を対象に、1人当たり6,500円を支援する事業を実施しました。な

お、支給は弘大生協組合員証(Picoカード)へのチャージという形で行われました。また、本事業は、大学予算に加え、岩谷元彰弘前大学育英基金から1,000万円を使用させていただきました。

家計が急変した学生に対する給付型奨学金 (日本学生支援機構事業)

本事業は、生計維持者の死亡や失職、自然災害などにより経済状況が急変した家庭の学部学生であって、かつ、学力基準等の資格を満たした者に奨学金を給付する事業です。これについて、本学の学生10数名が給付型奨学金(家計急変)を受給することができました。なお、新型コロナウイルスの影響で家計が急変した学生も本給付型奨学金の対象となりました。

「学びの継続」のための「学生支援緊急給付金」(文部科学省事業)

アルバイトの減少・解雇等による突然の収入減を受けて「学びの継続」に危機を抱える学生に対して、10万円(住民税非課税世帯の学生には20万円)を給付する事業が行われました。本学では、複数回に渡り募集を行い、その結果、要件に合致する学生に対して給付金を支給することができました。(学務部学生課)

た。教員に過度な負担なく、学生の利便性よく、というコンセプトで消化器外科学講座 袴田健一教授を中心に医学科学務と一体となり試行錯誤の末、簡単、確実な動画アップの仕組みを構築し5月上旬の授業開始を迎える。急展開の末のメディア授業は実はライブラリーでもある。12月時点で約1,200の講義動画が蓄積され今後の教育への利用価値は高い。医師は生涯学習。卒業数十年を経た同窓生への動画配信もありかもしれない。(医学科編集委員 樋口 毅)

医学部医学科通信

パンデミックは時代の陣痛といわれる。新学期間近の2020年3月25日、医学科でもオンライン授業・臨床実習が決まる。全学的な既存システム活用は、前期だけでも700以上の講義、情報量の多いスライド、そして最大800名の医学生同時アクセスなどから困難と判断された。反転授業に開発途中の独自の学習システムHOLSに白羽の矢がたち、オンライン授業への急ピッチの転用が迫られ

まつりのない季節

夏が近づくとそこかしこからねぶた囃子練習の音が聞こえてくる弘前の街。同窓生の皆様も、そのことをふと思い出すことがあるのではないのでしょうか。本学は昭和39(1964)年から、弘前ねぶたまつりに56年連続で出陣してきました。連続57年目となるはずだった令和2(2020)年、まつりは中止となりましたが、30年続けて本学のねぶた絵を制作していただいている聖龍院龍仙氏に今年も制作いただきました。そして、弘前ねぶたの伝統を繋いでいくため、また、弘前市、弘前商工会議所、地域のみなさまからいただいている多くのご支援への感謝の気持ちを伝えるため、8月1日から20日まで、中三弘前店1階ギャラリーにて「弘前大学ねぶた絵展示」を開催しました。

初日のオープニングセレモニーでは、まず福田眞作学長から感謝の言葉が述べられ、次に櫻田宏弘前市長と清藤哲夫弘前商工会議所会頭から激励のお言葉をいただきました。続いて聖龍院龍仙氏から、今年はねぶた絵を描けないものと思っていたところに、弘前大学から依頼があり驚いたこと、全人類を疫病から守る『神農』を題材に、「退散」より強い「滅敵」という言葉を含めた『神農疫病滅敵図』を描いたことのお話をいた



展示されたねぶた絵

いただきました。また展示期間中、会場にて弘前大学修学支援基金へのご寄附をお願いし、お礼に『神農』を描いた特製うちわをお渡ししました。



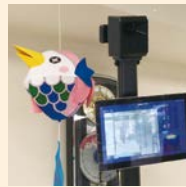
ご寄附のお願いと特製うちわ

清藤哲夫様におかれましては、2020年12月26日にご逝去されました。同窓会一同ご冥福をお祈りいたします。

教育学部通信

■ サーモグラフィーカメラの寄贈

新型コロナウイルス感染による発熱者の早期発見のために、大学では各学部の玄関にAI顔認証サーモグラフィーカメラを設置しました。教育学部同窓会では、学生の生協側の出入り口の利用も多いことから、もう1台サーモカメラを寄贈させていただきました。



また、感染防止の意識を高めてもらおうとアマビエのネプタを正面玄関に飾らせていただきました。

■ 教員採用試験対策講座への支援

既卒者を対象とした「教員採用試験対策講座」が、教職支援室・就職支援委員会の主催で実施されます。教育学部同窓会は、この講座を支援しております。教員採用試験を受験する方は、是非受講して下さい。期日：令和3年8月2日(月)～6日(金)(期間以外でも個別に対応します)申込：0172-39-3423(教職支援室)

コロナ禍のオープンキャンパス

新型コロナウイルスの影響に伴い令和2年度はWeb上でオープンキャンパスを実施いたしました。従来のオープンキャンパスでは、実際に自由にキャンパス内を見学し、実験や実習に参加できましたが、Web上で実施するにあたり、高校生にどうすればうまく伝わり、大学を理解していただけるのか大変悩みましたが、企画をシンプルに動画視聴方式(学部紹介・模擬講義等)とWeb対話方式(個別相談会等)にして実施することにしました。Web対話方式では、事前の予約が必要で、人気のある企画はすぐに予約満杯となっていました。

実施後の反省点として、回線がうまく繋がらない(Wi-Fi環境の問題?)、予約満杯となっている企画の追加予約をしないのか等ご意見を

頂きました。しかしながら一方で、参加された方からは、実際に訪問出来なかったが、学内の雰囲気や講義・実習の様子が動画を視聴して理解を深められた等の感想が寄せられ、大変感激した次第です。

例年の参加者は6千人強ですが、今回は2,501名でした。今後は、反省点を踏まえ、対面とWebをハイブリッドした新たな企画や実施方法を構築していきたいと考えています。(学務部入試課)



キャンパス紹介の動画再生の様子

コロナ禍の就職支援

キャリアセンターでは、学生の就職相談をはじめ、就職ガイダンスや学内企業説明会の実施など、様々な就職支援を行っています。令和2年3月卒業者の就職率は全学で98.9%と、平成30年3月卒業者の99.1%に次いで歴代2位となりました。

令和3年3月卒業予定者の就職活動の状況を見てみると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を直接受け、「想定していたような就職活動ができない」、「感染が拡大している地域で面接予定があるが、感染が心配」といった相談があり、Webでの会社説明会や面接に戸惑う学生も少なくありませんでした。

キャリアセンターではこの状況を受け、Web説明会・面接用に学内の部屋や機材を貸し出す体制を整え、コロナ禍の就職活動を支援しました。

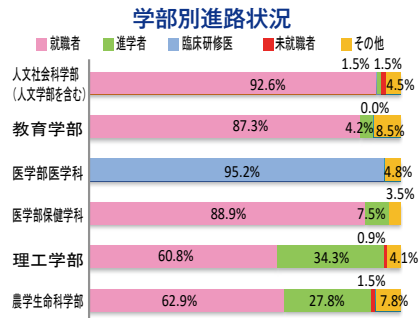
また、令和2年度は就職相談や各種イベントをWebでも対応できるようにしました。いまだかつて経験したことのない状況のなかで学生のために何ができるのか、日々試行錯誤を続けています。

キャリアセンターでは、今後も職員が一丸となって学生の就職支援に

取り組んでまいりますので、同窓生の皆さまからも学生へのご支援をいただければ幸甚に存じます。

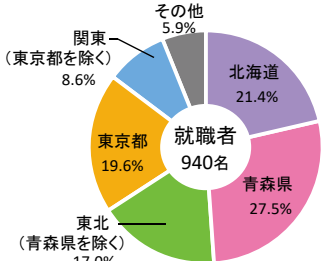
(就職支援室)

令和2年3月卒業生進路状況



	卒業生	就職希望者	就職者	未就職者	進学率	臨床研修医	その他
人文社会科学部 (人文学部を含む)	269	253	249	4	4	-	12
教育学部	165	144	144	0	7	-	14
医学部医学科	124	-	-	-	-	118	6
医学部保健学科	199	177	177	0	15	-	7
理工学部	344	212	209	3	118	-	14
農学生命科学部	205	132	129	3	57	-	16
合計	1,306	918	908	10	201	118	69

地域別就職状況



理工学部通信

コロナ禍の中、本学部・研究科では、全学共通の感染防止対策に加え、実験室等へのビニールシートやサーキュレータ等の設置による対策も行っています。理工学部同窓会としては、例年3月に開催してきた卒業・修了祝賀会について、社会へ羽ばたく新同樹会員へのエールを送れず大変残念ではありますが、2019年度は中止を決定し、2020年度も中止を決定いたしました。同樹会幹事会

も電子メールによる紙上開催とし、感染リスクの低減を心がけています。

さてオンライン授業等で使用されているビデオ会議ツールは、青森県外各地でご活躍の同樹会員を結びつける可能性を秘めていると感じます。オンライン同窓会の可能性など、皆様のアイデアを同樹会(下記URL参照)までお寄せいただければ幸いです。



<http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~doju/>

大好評！食支援「100円シリーズ」

コロナ禍での普段とは違う生活の中で、健康を保ち生活リズムを整えるのに重要な「食事」に対して、本学の学生に向けた食支援「100円シリーズ」について紹介する。

初めに、令和2年6月5日から大学生協文京食堂にて、「100円夕食」がスタートした。経済的に困窮している学生に、超低価格で栄養バランスの良い、ボリュームも十分な食事が提供され、学生からは「100円で栄養が摂れて嬉しい」や、「ここで出来た友達がいる」といった交流や出会いのきっかけを喜ぶ声も聞かれた。この取り組みは、弘前大学基金において全国の卒業生や関係者、地域の方、大学職員等からの寄附金を事業資金の一部として行われた。

後期授業開始日から期間限定で「100円朝食」も実施された。例年定期試験期間に実施している事業で、大学からの学生への①正しい食生活

を習慣づけてほしい②青森県産の食べ物を知り、食べてほしい③後期授業の開始にあたり生活リズムを整えてほしい、という願いが込められている。12月1日からは、地元経済への貢献と学生支援を同時に行う地元弁当販売業者を利用した「100円昼食弁当」を期間限定で販売し、大学の食支援「100円シリーズ」は朝・昼・夜の三食へと拡大していく。

さらに「100円シリーズ」が大好評であることを受け後期授業終了日まで継続すべく、クラウドファンディング「100円夕食プロジェクト」を立ち上げたところ予想以上のご支援をいただき、夕食のみならず昼食の継続にも至った。またSKファーム株式会社様から「もち麦」が寄贈され、「100円夕食」にて提供された。

沢山のご支援で行われた食支援が、コロナ禍での大学生活の一助となったことを期待する。

医学部保健学科通信

令和2年4月、弘前大学医学部に心理支援科学科が新設され、日本全国から10名の第1期生が入学しました。医学部内にある全国的にもユニークなこの学科は、保健医療、教育、福祉、司法・矯正等、様々な領域で活躍するための責任感と倫理観を養い、地域の心理支援職のリーダー人材を育成します。令和6年4月には、公認心理師国家試験の受験資格が取得可能となるよう、大学院

保健学研究科(博士前期課程)に心理支援科学専攻(仮称)の設置が予定されています。第1期生は、まもなく2年目を迎え、実習などを通してさらに経験を積んでゆきます。今後の心理支援科学科へ、同窓会の皆様のご支援をお願いいたします。



地域から学生への食支援

「100円シリーズ」にて紹介したSKファーム株式会社様からの「もち麦」寄贈の他に、地域から寄せられた食支援を紹介します。

(株)ヒロサキ様からの食支援

「りんごのコンポート」を寄贈して頂き、「100円夕食」の中で7月14日の「鮭丼セット」と8月4日の「まぐろたたき丼セット」のデザートとして提供され、ともに限定300食が完売となりました。



県産米2キロと1リットル瓶りんごジュース2本の寄贈を受けました。提供されるお米の総量は4.5トンと、県外他大学における同様の支援と比べて大規模なものになりました。



県内13市町村の地元産品を活用した食支援プロジェクト

本学と包括連携協定を締結している県内の13市町村とコラボし、各市町村の地元産品を活用した食支援が実施され、産品パッケージ提供と、学生食堂でのメニュー提供が行われました。学生からは、参加市町村への感謝、今後の産品購入希望、参加市町村への観光希望などの声が聞かれました。本プロジェクトは複数の報道機関にて取り上げられ、参加市町村のPR効果にも大きく貢献するものとなりました。(社会連携課)



大和家様からの食支援

老舗日本料理店の弘前市民に愛されるロングセラー手造りおにぎり(具材5種)を、一日当たり50個無償で提供いただきました。学生からは、無料でいろいろな味も楽しめて助かるなどの喜びの声が聞かれました。



JAグループ青森様からの食支援

希望があった一人暮らしの学生2,238名に対して、一人当たり青森

農学生命科学部通信

新型コロナウイルスの流行により、学部でも収穫祭や高校生向けに講義をするアグリカレッジなど多くのイベントが中止となった。学部の看板カリキュラムである海外研修入門も延期となり、期待していた学生には残念なことであった。学部附属の藤崎農場では、毎年「りんごとチューリップのフェスティバル」を開催してきたが、こちらも残念ながら中止。農場のチューリップ園には、12種類約13,000球が植付けてあり、栽培には学部学生が大きく関わって

いる。毎年ゴールデンウィーク後半に見頃を迎え、大勢の来客の目を楽しませてくれるチューリップは、誰もいない農場で待ちわびるかのよう、それでも華麗に力強く咲き誇っていた。是非、以下のサイトからその様子をご覧ください。



岩木山を背景に咲く農場のチューリップ
<http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/tell/10503>

コロナ禍の課外活動

ヒロマガとのコラボ企画

コロナ禍の状況に応じ課外活動は中止を余儀なくされ、再開時には感染症拡大防止策が必須となるため、その支援として課外活動団体に対する感染防止費の給付が行われました。この給付を受けた団体の中から、医学部卓球部・岩織瑛典さん、弓道部・栗野正義さんと佐々木駿さん、吹奏楽団・高山史帆さん、弘大ラジオサークル・岩船真帆さんにコロナ禍の課外活動について伺いました。

給付費の使途 マスク購入が中心のようでした。吹奏楽団ではマウスピースクリーナー購入など団体ならではの使途もありました。

練習や集会の変化 いずれの団体も練習の場所や時間の確保が困難に



卓球台上の感染防止対策用品

なったようです。ラジオサークルでは、対面での他愛もない会話から生まれていた番組づくりのアイデアが減り、対面の貴重さを実感したそうです。弓道部は個人技を基本としているため、密集回避に比較的対応しやすかったようですが、吹奏楽団は大人数であるため、楽器の使い回し禁止や練習場所への入退時刻の記録など工夫をしたそうです。

競技機会 卓球は対戦競技であるため、オンライン化不可能であり大会が全て中止になったそうです。弓道では従前との違いはあるものの、試

合をオンライン化したそうです。**先輩や同窓生へ** 吹奏楽団からは、地域で行ってきた演奏会中止を受け、過去そのような機会を築いてくれた先輩への感謝の想いを、ラジオサークルからは、コミュニティ放送エリアを超え、ネットラジオアプリを介して全国の同窓生へ番組を届けたいという想いを伺いました。

本インタビューの記事は、弘前大学公式ウェブマガジン「HIROMAGA (ヒロマガ)」とコラボしています。こちら是非ご覧ください。
<https://www.hiromaga.com/>

弘前大学では、学生支援、教育研究活動等の一層の充実を図るため、平成27年7

月に「弘前大学基金」を創設しました。これまで、本学同窓生をはじめ、多くの企業や一般の方、現職の教職員からご寄附を頂いております。

今回、世界的に猛威を振るっているコロナウイルスは、学生生活に大きな影響を及ぼし、経済的に困窮する学生が多数発生しました。このため、弘前大学基金を活用し、教材費の支援や100円夕食の提供を実施しました。

しかし、コロナウイルス感染症が収束しないため、学生支援も長期間

ご寄附への御礼とご支援継続のお願い

となり、財政的に厳しい状況となりましたので、支援を継続するための財源確保を図りました。令和2年の「弘前ねぶたまつり」は中止となりましたが、本学は例年どおり「ねぶた絵」を製作しておりましたので、8月1日から20日まで弘前市土手町で展示するとともに、同会場で募金活動を行い、一般市民の方や帰省した方々から、多額のご寄附を頂くことができました。さらに、募金の全国展開を図り、クラウドファンディングを立ち上げたところ、大きな反

響とともに、本学卒業生や関係者、一般市民の方からご支援を頂き、寄附額は当初想定額の160%となりました。また、本学学生の困窮する状況に対し、寄附金だけではなく、関係自治体や団体、複数の企業、そして、一般の個人の方からも、マスクや消毒液、食材など、多くの支援物資のご寄附がありました。特に、全国的にマスクが品薄で入手困難な時期に、海外協定校の「大連理工大学」や地元の「ブランデュー弘前FC」、複数の企業から、大量の不織布マ

スクや特製布マスクのご寄附があり、マスクを入手できなかった学生や特別支援学校生徒に配布させていただくことができ、大変助かりました。このように、本学学生は、多くの方から様々な形でご支援を頂きながら学生生活を送っており、皆様の温かいご支援に、心より深く御礼申し上げます。コロナウイルスの影響は、まだまだ続くと思われませんが、弘前大学は、学生が修学を断念しないよう、これからも学生への支援を行ってまいりますので、今後も引き続き同窓会会員の皆様にご支援の継続をお願い申し上げます。(財務部)

「吉田基金」TOEIC賞授与式

同窓会では、平成14年より弘前大学の国際化教育(学生)の支援を目的として、TOEICの高得点者(990点満点中900点以上)を対象とし、審査の上で賞状と副賞を授与しています。

令和2年度は、人文社会科学部3年の相場崇彦さんが920点、医学部医学科2年の馬島奈彩さんが910点のスコアで授賞し、コロナ禍のため例年よりも規模を縮小しつつ、令和3年3月1日に授与式が行われました。

西澤同窓会長から、この受賞を国際人へ成長するための出発点として活かしてほしいと、激



励を込めた祝辞がありました。相場さんにおいては、本学 English Loungeでの入学以来の学びと米国留学経験が、馬島さんにおいては、専門科目履修の傍らの限られた時間の中でも入念にTOEIC受験対策を行うなどの努力が、それぞれこの度の受賞に結び付いたとのことでした。今後、自分の言葉で思いを海外へ発信することや、他の言語習得への意欲を示されていました。是非この度の受賞を糧にして、世界を視野に入れた今後の活躍を期待します。

令和2(2020)年度 弘前大学同窓会役員名簿

名誉顧問	吉田 豊	弘前大学元学長
顧問	遠藤 正彦	弘前大学元学長
顧問	佐藤 敬	弘前大学前学長
顧問	福田 眞	弘前大学学長
顧問	三上 眞	農学生命科学部同窓会顧問
会長	西澤 一治	医学部医学科副会長
副会長	千葉 信行	理工学部同樹会会長
理事	建部 礼仁	人文社会科学部同窓会会長
理事	葛西 正	人文社会科学部同窓会副会長
理事	相馬 法	教育学部同窓会会長
理事・事務局長	工藤 睦男	教育学部同窓会副会長
理事	澤田 美彦	医学部医学科副会長
理事	小山内 暢	医学部保健学科さくら会会長
理事	千葉 満	医学部保健学科さくら会副会長
理事	山上 佳孝	理工学部同樹会副会長
理事	高谷 清	農学生命科学部同窓会会長
理事	熊谷 幸一	農学生命科学部同窓会副会長
監事	小笠原 潤	人文社会科学部同窓会副会長
監事	糠塚 いそし	理工学部同樹会会員

令和元(2019)年度 弘前大学同窓会決算報告書

1. 収入の部		
項目	令和元年度予算額	令和元年度決算額
前年度繰越分	2,944,727	2,944,727
同窓会費		
人文学部同窓会	185,500	185,500
教育学部同窓会	119,000	119,000
医学部医学科副会長	78,400	78,400
医学部保健学科さくら会	140,000	140,000
理工学部同樹会	252,000	252,000
農学生命科学部同窓会	150,500	150,500
預金決算利息	27	15
計	3,870,154	3,870,142
2. 支出の部		
項目	令和元年度予算額	令和元年度決算額
印刷費	400,000	390,074
役員費	298,220	303,957
会議費	50,000	32,044
旅費	7,000	6,170
通信費	6,000	4,233
消耗品費	3,000	0
雑費	30,000	1,387
70周年記念事業関係	2,000,000	2,108,000
予備費	1,075,934	1,024,277
計	3,870,154	3,870,142

令和2(2020)年度 弘前大学同窓会事業予算書

1. 収入の部		
項目	令和元年度決算額	令和2年度予算額
前年度繰越分	2,944,727	1,024,277
同窓会費		
人文学部同窓会	185,500	185,500
教育学部同窓会	119,000	112,000
医学部医学科副会長	78,400	78,400
医学部保健学科さくら会	140,000	140,000
理工学部同樹会	252,000	252,000
農学生命科学部同窓会	150,500	150,500
預金決算利息	15	15
計	3,870,142	1,942,692
2. 支出の部		
項目	令和元年度決算額	令和2年度予算額
印刷費	390,074	400,000
役員費	303,957	298,220
会議費	32,044	50,000
旅費	6,170	7,000
通信費	4,233	6,000
消耗品費	0	3,000
雑費	1,387	30,000
70周年記念事業関係	2,108,000	0
予備費	1,024,277	1,148,472
計	3,870,142	1,942,692

令和2(2020)年度 弘前大学同窓会事業計画

1. 事業内容	
(1) 大学現況内容等の会報(年1回)の発行	
(2) 各学部同窓会間の連絡調整	
(3) 弘前大学同窓会ホームページ活用業務	
(4) 大学関係係事等への後援・協賛	
2. 事業費	
(1) 印刷費	400,000円
・会報22号作成	380,000円
(2) 役員費	298,220円
・役員 @1,147円×260時間=298,220円	
(3) 会議費	50,000円
(4) 旅費	7,000円
(5) 通信費	6,000円
(6) 消耗品費	3,000円
(7) 雑費	30,000円
事業費計	794,220円
3. その他	
弘前大学創立70周年記念事業へ向けての活動	
令和元(2019)年度 弘前大学同窓会「吉田基金」事業計画	
1. 事業内容	
(1) 国際化教育支援	
2. 事業費	
(1) TOEIC賞副賞	200,000円
・100,000円×2名分	
事業費計	200,000円

令和元(2019)年度 弘前大学同窓会「吉田基金」決算報告書

1. 収入の部		
項目	令和元年度予算額	令和元年度決算額
前年度繰越分	1,600,113	1,600,113
預金決算利息	14	13
計	1,600,127	1,600,126
2. 支出の部		
項目	令和元年度予算額	令和元年度決算額
TOEIC賞副賞	200,000	100,000
予備費	1,400,127	1,500,126
計	1,600,127	1,600,126

令和2(2020)年度 弘前大学同窓会「吉田基金」事業予算書

1. 収入の部		
項目	令和元年度決算額	令和2年度予算額
前年度繰越分	1,600,113	1,500,126
預金決算利息等	13	10
計	1,600,126	1,500,136
2. 支出の部		
項目	令和元年度決算額	令和2年度予算額
TOEIC賞副賞	200,000	200,000
繰り越し・予備費	1,400,126	1,300,136
計	1,600,126	1,500,136

編集後記

◇前号21号の創立70周年記念事業報告から一転、今号22号はコロナ禍における大学の状況について、同窓生各位や地域各所から寄せられた温かいご支援への御礼も込めてお知らせした。
 ◇コロナ禍の影響は当然のことながら編集委員にも及び、編集会議の開始は遅れ、開催はオンラインで行った。オンライン会議自体は円滑にできたものの、会議回数を減らし、発行日を遅らせざるを得なかった。
 ◇大学の状況をお知らせするにあたり、各学部学科卒などを従前よりも縮小し、ご多忙にもかかわらず大学各部署から、さまざまな取り組みについて寄稿や取材協力をいただいたことに深謝する。
 ◇ご就任とコロナ禍対応が重なった福田学長の優れたリーダーシップのもと、学生、教職員、そして同窓生の一体感の大切さを西澤会長の寄稿から痛感し、また各記事から大学生協や地域の支えを改めて心に刻む。

私たちが編集しました

委員長 一條健司 副委員長 濱田茂樹
 委員 中坪勝 泉谷安規 對馬浩二
 福島成利 田村一朗 樋口毅 石川大瑛
 小枝周平 芹田美穂子 泉完 津田良司
 伊森英明 工藤睦男

弘前大学同窓会事務局
 ☎0172(39)3490